

介護ロボット導入に不可欠な継続的職員教育とは ＜理論と実践：Why? How? What?＞



- 株式会社シード・プランニング 顧問
- 国際医療福祉大学大学院・福祉支援工学分野
- 東京未来大学福祉保育専門学校・介護福祉科
- 東京福祉専門学校・介護福祉科

小林宏気

小林宏気（こばやしひろき） 神戸市生まれ・趣味：マッサージ

【職歴】

- (兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所)
- オットボックジャパン株式会社
- 川村義肢株式会社
- 株式会社オーテックジャパン（日産）
- 学校法人帝京大学
- 社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究所 他

【その他・現職】

- テクノエイド協会福祉用具プランナー管理指導者養成研修・講師
- 福祉産業学研究所・代表研究員
- 一般社団法人ワイズ住環境研究所・理事
- 主体的学び研究所・フェロー
- NPO法人STAND・顧問
- SOMPOケア株式会社・データ戦略部 兼 教育研修部・シニアリーダー
- 「介護サービスにおける生産性向上に向けた介護経営の在り方に関する調査研究事業」・委員 他
- 博士（保健医療学）／修士（工学・経営情報学・保健医療学）

Why ?

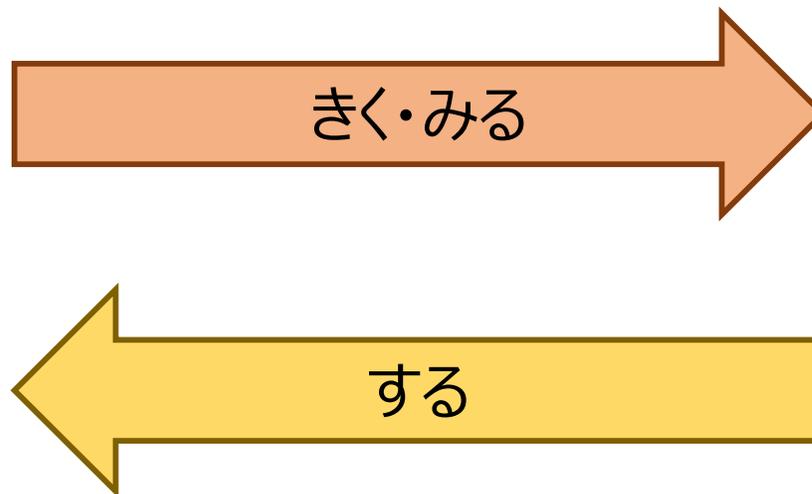
なぜ<Why>、介護ロボット・ICTが必要なのでしょうか？



【きく・みる】ご利用者からお話を聞いたり、見たりして「ニーズ」を集める。

【考える】得られたニーズから、すべきことを考える

【する】考えて、決めた支援をする。

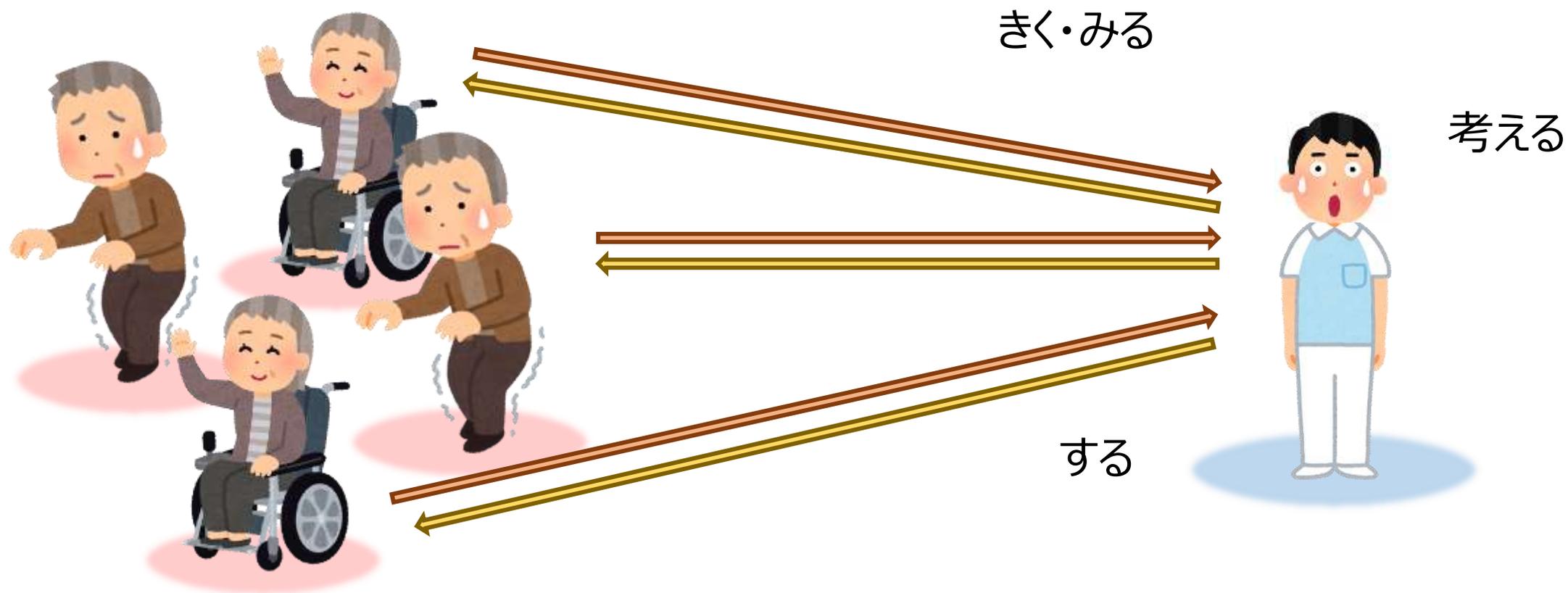


考える



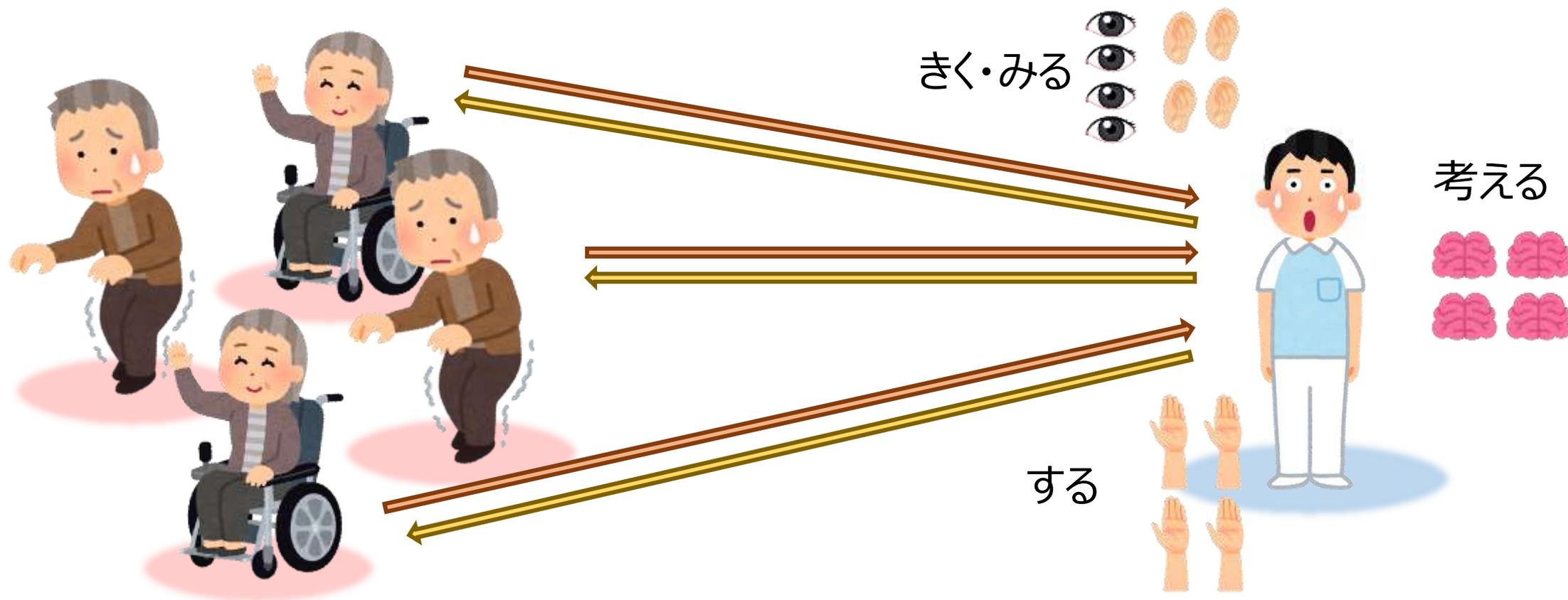
これからの世界

ご利用者が増加するので、【きく・みる】【考える】【する】数が**増える**
(障害者が高齢化に伴って、複合的な課題が爆発的に増加する可能性)



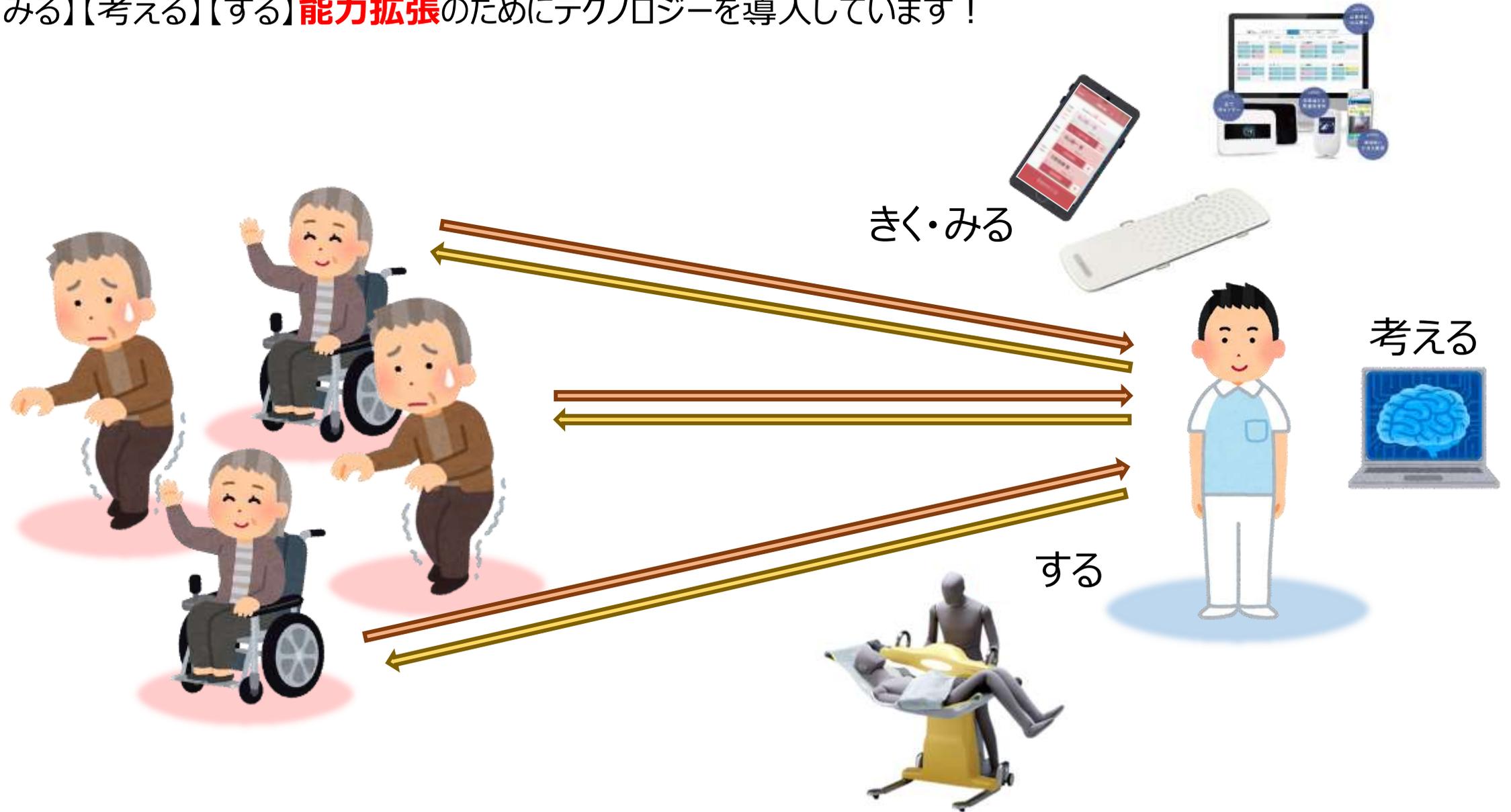
スタッフに求められる能力

より多くのご利用者に対して【きく・みる】【考える】【する】ためには、**能力拡張**が必要！



テクノロジー導入の理由

【きく・みる】【考える】【する】**能力拡張**のためにテクノロジーを導入しています！





人そのものの能力がすごい！



すごい道具を身につける！

How ?

どうすれば <How>、介護ロボット・ICTを介護現場に導入することができるでしょうか？



1. 利用者の活動（動き）が異なる

- ・素早い動きもあるため、センサー等の設定調整が必要である。
- ・行動範囲も大きく異なるため、センサー等の有効範囲を検討する必要がある。

2. 機器に対する受け止めが異なる

- ・機器に対して興味や恐怖心が発生して破損する可能性がある。
- ・iPad等のモバイルツールは身に着けるグッズが必要である。

把握 (Search)

1. 現状把握 (チーム、気づき/作業一覧)
2. 課題分析 (課題の構造化等)

計画 (Plan)

3. 優先順位 (どこから手を入れるか)
4. 影響予測 (期待される効果)

準備 (Prepare)

5. 導入体制 (拡大チーム、合意)
6. 調査評価 (情報収集、モノ、補助金)

導入 (Do&Check)

7. 導入 (OffJT、OJT、マニュアル)
8. 効果測定 (効果の確認、課題把握)

- ・パフォーマンスが一時的に下がることもある。
(中長期で効果が出ることが多い)

どんな山があるのかな？

どの山から登る？ 景色は？

誰と？ どんな装備で？

登ろう！ どこまで来たかな？



面会制限、不安募る家族 「ガラス越し電話」の試みも（日経・4月24日）

東京都文京区の介護付き有料老人ホーム「杜の癒しハウス文京関口」では、施設外から「ガラス越し」で家族に面会してもらっている。感染防止のため入所はできないが、**電話をつないで**ガラスの向こうの顔を見ながらの会話が可能だ。職員らは立ち会わず、家族だけのひとときをつくる。



「豆大福お願い」高齢者向けに買い物中継、散歩もお届け（朝日・5月14日）

「上にある、のり巻きの方がいいな。あと豆大福もお願いできる？」

介護付き有料老人ホーム「杜の癒しハウス文京関口」（東京都文京区）の1階に置かれた**プロジェクター**に、地元商店街の店の**映像**が映し出された。男性利用者は商品棚を指さし、買いたい品物を選んでいく。

その後、スタッフは施設の利用者が普段散歩している公園へ。「今日は外、暑いですよ。川のせせらぎ、聞こえますか」。新緑の木々に**スマートフォン**をかざし、音も届ける。「もうそんな時季なのねえ」。施設で映像を見ていた80代の女性利用者が目を細めた。



1.現場との共同作業になっていない

「トップダウンで導入したが、**現場と目標や目的などの共有ができていない**」ということがよく見られます。導入に際しては周到な準備が必要であり、また**トップから現場までをあらかじめ巻き込んでおく必要がある**のです。

2.目的と手段の履き違え

「**目的と手段を履き違える**」ケースが非常に多く見られます。導入することが目的になってしまうのです。例えば、「補助金が出る！」との情報を得て、国や自治体の補助事業に飛びつき導入したものの、後に使わなくなってしまうケースです。

参考資料 : <https://pro.kao.com/jp/medical-kaigo/topics/business/20200218/>

1. 苦手意識

そもそもパソコンやスマホのスキルがない（学んでいない）可能性も。
ここを丁寧に学びあうことが第一歩。



2. 老眼

文字が小さいと、書いてあることがわかりません。



3. 意味不明

技術的な言葉が使われると、そこで思考停止。



4. 繰り返し

全体研修、個別研修、個別支援などいくつかの規模で学びあう。



5. 初心にカエル

行き詰ったら、〈Why〉を再確認しましょう。



6. すぐに成果はでない

自転車と同じ。最初はコケる。



介護職は、「**感情労働**」だといわれています。

感情労働というのは、その場面で求められている、あるいはその場面にふさわしい感情を示すために、**自分自身の本当の感情を抑え込み、感情をコントロールする必要がある仕事**を指しています。

元々は、航空機のキャビンアテンダント（客室乗務員）がその代表例とされていましたが、今は、看護師や介護職、企業の苦情処理担当なども感情労働に当たるといわれるようになりました。

<https://www.kaigo-kyuujin.com/oyakudachi/topics/53630/>

⇒ これまでやってきたこと（我慢してきたこと）に対するプライド

⇒ **介護ロボット・ICTの納得なき導入は逆効果**になる可能性もある。
（介護ロボットが人間に代わると誤解されると最悪…）



What ?

介護ロボット・ICTができることは何<What>でしょうか？



介護ロボットやICTは能力拡張・補助

介護ロボットやICTは
介護スタッフの**能力拡張・補助**

⇒使う**意欲**が最重要

脳の拡張



目、耳の拡張



口の拡張



手足の拡張



高齢者用に作られた介護ロボットは障害者の特性に合わせた調整が必要！

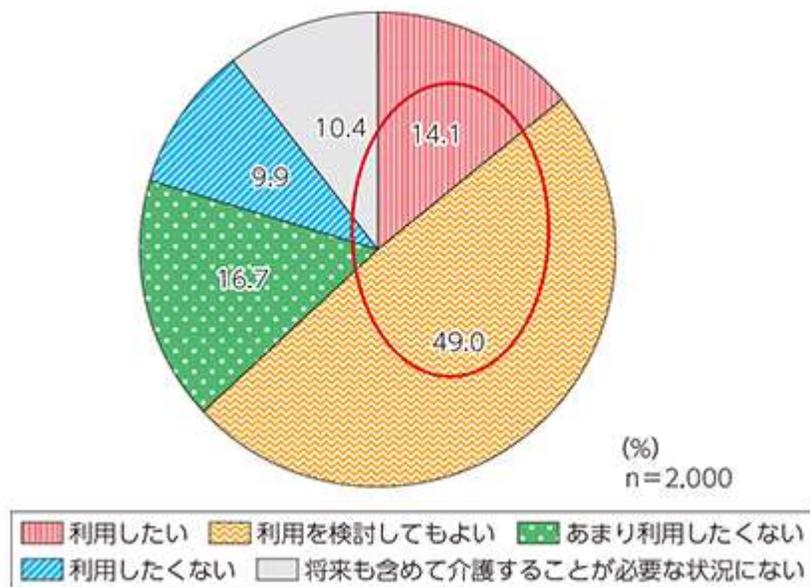
(例) 見守りセンサー：高齢はベッド中心で体動少、強度行動障害は**居室全体**で**体動多**等

ご利用者と介護者の想いは？

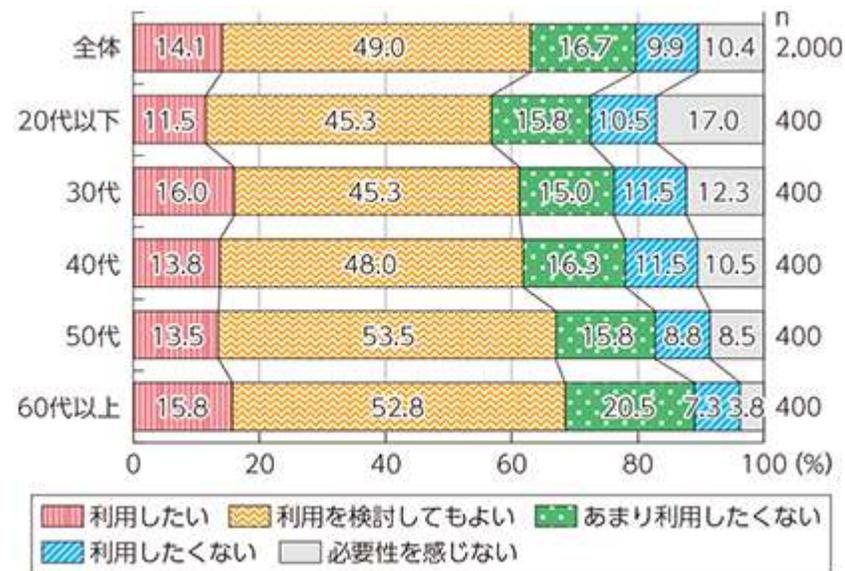


介護用ロボットの利用意向（介護する側として）

全体



年代別

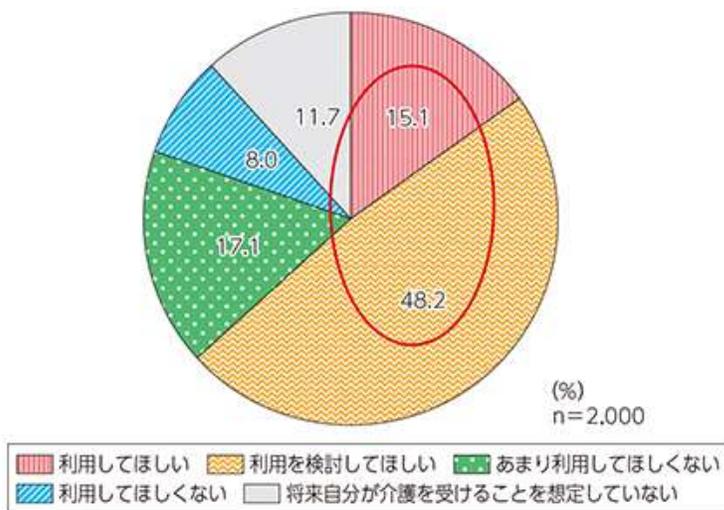


参考資料：平成27年版 情報通信白書

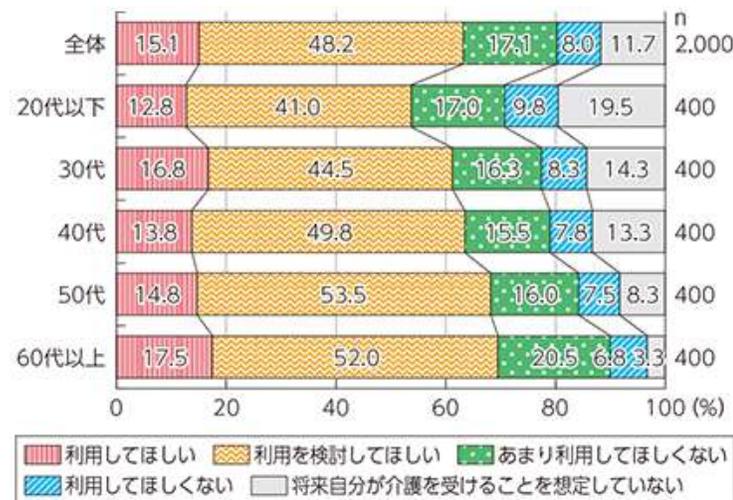
介護「**する側**」の過半数が介護ロボットの利用に対して**ポジティブ**

介護用ロボットの利用意向（介護される側として）

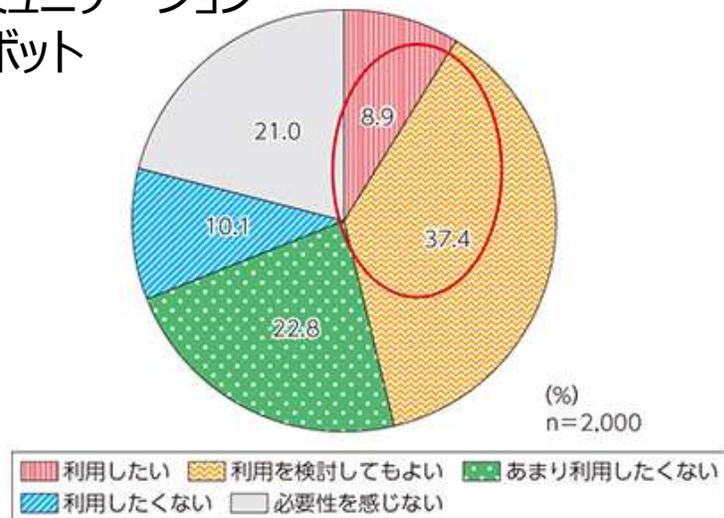
全体



年代別



コミュニケーション
ロボット



介護「される側」も過半数が介護ロボットの
利用に対して**ポジティブ**

コミュニケーション・ロボットは半信半疑？
→**やっぱり、人と話したい。**

まとめ と お願い



1) なぜ、介護ロボット・ICTが必要なのでしょう？

- ・少子高齢化で支援を受ける側が増えて、支援をする側が減るから
- ・能力拡張のために道具（介護ロボット・ICT）が利用できるから

2) どうすれば、介護ロボット・ICTを介護現場に導入することができるのでしょうか？

- ・施設、組織にあった方法を考える（4つのステップ、つまずきポイント）
※感情労働であるため、納得なき導入は逆効果

3) 介護ロボット・ICTができることは何でしょうか？

- ・介護スタッフの能力の拡張（意欲が大切！）

※支援を受ける側、する側がともにポジティブ（肯定的）



介護ロボット・ICTを教えるために、身につけていただきたいこと。

1) 倫理、道徳（心）

- 自分たちが楽になるためだけではありません。**ケアの品質向上のため**です。
- 「介護は人がするもので、介護ロボットやICTはいらない」という意見に対して、しっかり考え、答えられるようにする（**人の代わりになるのではない**）



2) 知識（脳）

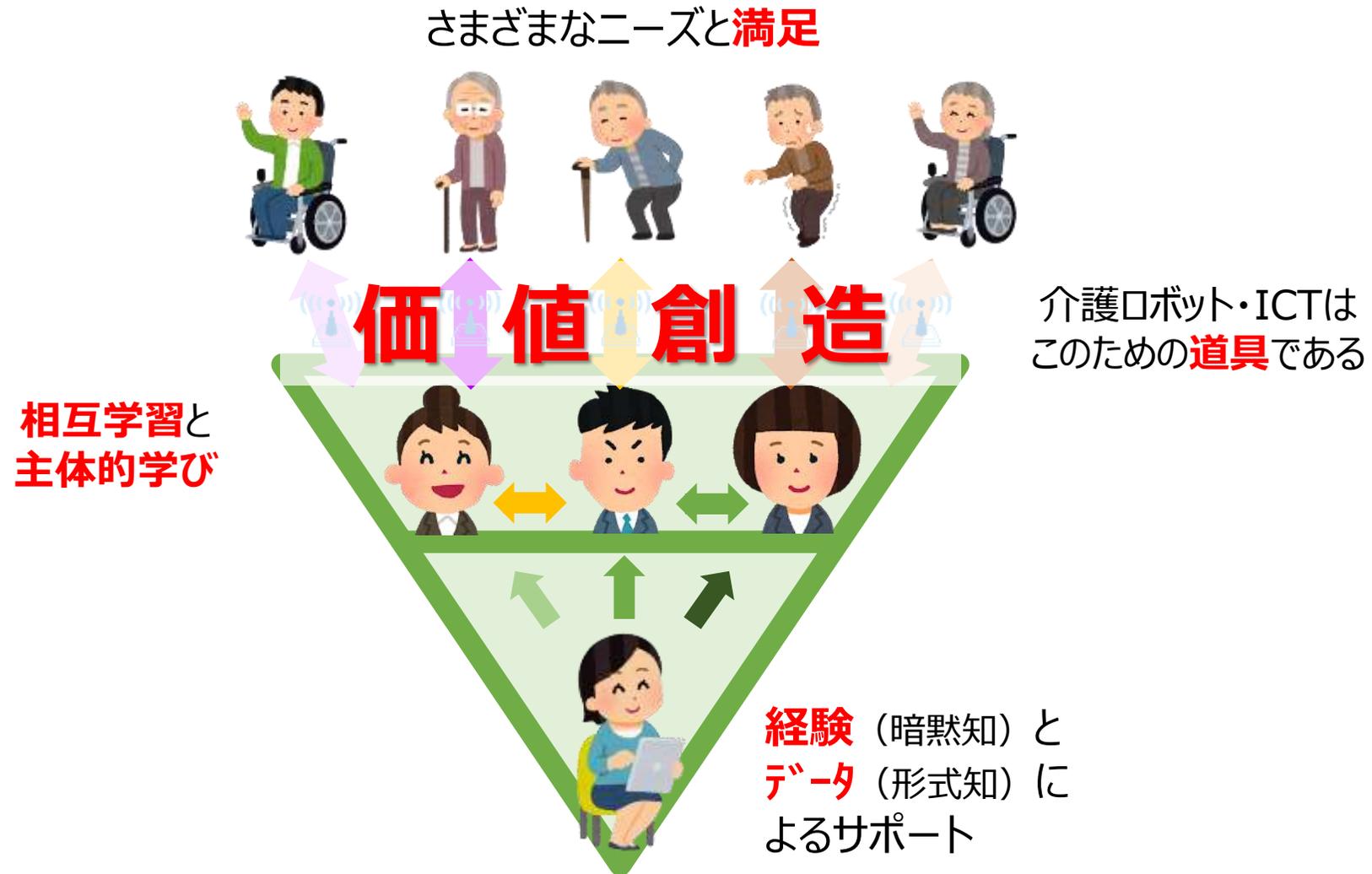
- 介護ロボットやICTの**特徴**や**実現できること**を説明できるようにする。
- 国や自治体はどのような**方針**で進んでいるのかを説明できるようにする。



3) 技術（体）

- 介護ロボットやICTを**使う**ことができ、**指導**することができる。
- 介護ロボットやICTの**メーカー担当者**と**連携**することができる。





ご利用者のさまざまな**ニーズ**を**効率よく収集**して、**最適な**介護サービスを提供できる体制
（支援員がご利用者と「**価値創造**」できる世界）

ご清聴ありがとうございました！

